

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330120

研究課題名（和文）

ソーシャルワーク教育における研修方法とプログラムの開発に関する研究

研究課題名（英文）

A Study of Training Skills and Programming in Social Work Exercise

研究代表者

中村 佐織 (SAORI NAKAMURA)

京都府立大学・公共政策学部・教授

研究者番号：80198209

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：社会福祉関係、ソーシャルワーク、社会福祉援助技術

1. 研究計画の概要

「社会福祉士及び介護福祉士法」の成立から 20 年以上が経過し、専門職の増加とともに社会福祉の専門性の意義は一般に認知されてきたといえる。また、平成 19 年の改正によって実習と連動した実践教育の強化や、より質の高い専門職養成のための演習の充実が求められるようになってきた。しかし一方で、そこでの養成プログラムの検討に関しては始まったばかりである。

そこで本研究の目的は、こうした社会的養成に因應するためにソーシャルワークの質の向上（質の高い専門職養成）を目指した新たな教育方法の構築をすすめることにある。そのため、まずは研修方法とプログラムの開発の現状や先行研究の考察をふまえ、新たな提案を考えていくうえでの計画を作成してきた。具体的には、次の 4 点について明らかにすることを目的とした。

(1) 先行研究による研修・演習の状況

- ①わが国および諸外国の状況と問題
- ②概念、方法、プログラム展開などの整理

(2) 調査による研修・演習の状況理解

- ①統計にみる理解（受講生への調査）
- ②事例や研修内容にみる理解

(3) 演習と研修の特徴からの教材開発

- ①事例づくり
- ②ワークシートやツールの開発

(4) ソーシャルワーク教育における研修システムの定式化

- ①新たなソーシャルワーク教育概念や構成要素の整理
- ②(1)～(3)をふまえたシステムモデルの作成

2. 研究の進捗状況

本研究課題で得られた成果については、諸外国と日本の先行研究の渉猟からわが国の現状を明確にし、理論的整理と実践的検討をすすめてきた。具体的には、研究計画の概要にそってその成果を解説したい。

(1) 先行研究による研修・演習の状況

諸外国およびわが国の文献等による先行研究を渉猟して、①わが国における研修・演習は個人の担当者の裁量によってなされている状況であり、そのため受講生の質の担保ができない問題や、研修・演習担当教員の少なさと専門性の問題が明らかになった。また、②理論的整理のなかでは、教える人、学ぶ人、演習内容、演習をとりまく環境の 4 つの項目を視野に入れることの必要性を明示した。

(2) 調査による研修・演習の状況理解

①統計にみる理解では、全国社会福祉協議会中央福祉学院の社会福祉主事研修の受講者 253 名にアンケートを行い、ソーシャルワーク特有の用語の難しさや、理論と実践をつなぐ能力の問題を明らかにしてきた。また、②事例や研修内容にみる理解では、特に毎年、研究分担者も含めてそれぞれが行っている研修での受講生の理解の問題とともに研究代表者が行った演習担当教員の講習会で教える人の側の問題（能力、姿勢、意欲など）も明らかになった。

(3) 演習と研修の特徴からの教材開発

ここについては、大学の演習や実践者の研修のなかでワークシートやツールの開発を行ってきている。特に、受講生の能力（発想力、創造力、応用力、展開力など）を育成するためのワークシートの作成については蓄積されてきていると考えている。

(4) ソーシャルワーク教育における研修とシステムの定式化

ここに関しては、(1)～(3)をふまえて概念や展開モデルの整理を行っているところである。

3. 現在までの達成度

現在までの達成度に関しては、区分②概ね順調に進展している。なぜなら、当初の計画は先行研究による現状と問題をふまえて新たな研修・演習やプログラムづくりのモデルを理論から実践展開という一貫した流れですすめられているからである。また、毎年その成果を学会で報告しており、最終年はそれらの内容を含めた出版を予定しているため、その進展は目に見えた形ですすんでいる。

4. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策については、研究計画で未だ十分達成できていない事例やワークシート作成の積み上げに焦点をおきたい。そして、その演習プログラムやシステムに関する検討は、当初予定していた自主企画のワークショップでの検証から大学や既存の研修のなかでの検討に変更していくことを考えている。なぜなら、その方が残り1年での実施と達成可能な方策であると考えからである。また、本研究の報告書とは別に、研究分担者も含めた出版(ミネルヴァ書房)を予定し執筆している状況である。そのなかでも研修システムの定式化を明示していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ①西梅幸治、西内章、新藤こずえ、初任スクールソーシャルワーカーの実践特性と課題 ―高知県における活用事業をとおして―、高知女子大学紀要、60、95-108、2010年、査読無

[学会発表] (計1件)

- ①山口真里、ソーシャルワークにおけるストレンギス教育の現状と課題 ―「相談援助」系科目担当教員へのヒアリング調査をつうじて―、日本社会福祉学会第58回秋期大会、日本福祉大学、2010年10月10日

[図書] (計3件)

- ①太田義弘編著、溝渕淳、長澤真由子、安井理夫、山口真里、西梅幸治、丸山裕子、伊藤佳代子、小柴住まゆ子、菊池信子、中村佐織、加藤由衣、河野高志、梅木真寿郎著、相川書房、ソーシャルワーク実践と支援科

学、2009年、270頁(山口真里担当箇所：61-73頁、西梅幸治担当箇所：74-87頁・142-156頁、中村佐織担当箇所：169-173頁・227-260頁)

- ②社団法人日本社会福祉士養成校協会編集、潮谷有二、松永公隆、米本秀仁、六波羅詩朗、福山和女、白澤政和、石川久展、堀越由紀子、所めぐみ、高山直樹、石川到覚、山本博之、川村隆彦、植田寿之、中村佐織、岩間伸之、李政之著、中央法規、相談援助演習教員テキスト、2009年、239頁(中村佐織担当箇所：203-213頁)

- ③白澤政和、福山和女、石川久展編集、石川久展、岡田まり、小澤温、加藤純、神山裕美、川上富雄、川村隆彦、北島英治、木戸宣子、小林雅彦、白澤政和、鈴木力、副田あけみ、對馬節子、永坂美晴、長友祐三、中村和彦、中村佐織、野田正人、福島喜代子、福富昌樹、福山和女、藤井博志、藤田さかえ、松為信雄、松岡克尚、松山真、山野則子、山辺朗子、山本博之、湯澤直美、横須賀俊司、李政元著、中央法規、社会福祉士相談援助演習、2009年、320頁(中村佐織担当箇所：146-149頁・174-177頁)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

- ①齊藤順子、スーパービジョンから学ぶ対人援助、自主作成の冊子、2009年、109頁

- ②齊藤順子、社会福祉主事資格認定通信課程講師、全国社会福祉協議会 中央福祉学院、2008年～2010年